

消化器内科

胃がんの

内視鏡治療について

国吉病院

消化器内科部長 岡本博司 さん



胃がんの内視鏡治療は、低侵襲で術後の苦痛が少ない、入院期間が短くて済む、胃の機能が温存できるなどの利点があります。しかし、従来行われてきた内視鏡的粘膜切除術（EMR）では、大きな病変を一度に切除するのは困難で、周辺にがんが残り再発しやすいという限界がありました。この欠点を克服するために開発されたのが内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）で、この10年ほどで広く普及してきました。ESDでは病変の下にヒアルロン酸や生理食塩水

を注入して病変を筋層から十分に持ち上げ、電気メスで病変の周りを全周切開してから、病変を粘膜と筋層との間で剥ぎ取っていきます。最初に切除する範囲を決めて全周切開してしまえば、大きな病変でも時間をかければ一括切除が可能で、病変の周りに余裕をもたせて切除することもできるため、がんが残って再発することが少なくなります。しかし必要以上に大きく切除することは良くありませんので、最近では術前に拡大内視鏡という高倍率で観察可能

な内視鏡を用いて切除範囲を正確に決定するようになってきました。また、がんの深さや血管・リンパ管への浸潤を、術後の病理診断で正確に行えるというメリットもあります。主な合併症は出血、穿孔で数%に見られます。治療時間は病変によって異なりますが、おおむね30分〜2時間程度です。普通の内視鏡検査より長時間を要しますので、十分な沈静下で行います。通常、翌日より摂食可能となり、入院期間は1週間程度です。内視鏡治療は病変が粘膜層にとどまっている分化型の早期がんが対象です。がんが進行していると開腹手術が必要になります。たとえがんになっても内視鏡治療で済むように、定期的な検診をお勧めいたします。

国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】消化器内科・循環器内科・消化器外科・緩和ケア内科・整形外科 他